乾田Ｖ溝直播　マニュアル

＜Ｒ７産　重点対策ポイント＞

・代かきの前に土壌改良資材及びリン酸、カリ肥料を施用する。

・４月中～下旬に、圃場がよく乾いた条件で播種する。
　※種子がＶ溝の底に位置し、覆土されていることを確認

・出芽個体の半数が第２葉期になったことを確認して入水。

・入水後は、抑草効果と肥効を持続させるため、収穫間際まで湛水管理を行う。

令和７年４月

アルプス農協管内農業技術者協議会

１．圃場の準備

・前年の秋（圃場が乾く時期）に、耕起から代かき、溝切りまでの作業を実施しましょう。

＜耕起・代かき・溝切り　作業の流れ＞

畦塗り

湛水後の減水深を小さくするために、畦塗りは、丁寧に行いましょう。

土改剤散布

基肥は、窒素のみの施肥であることから、「PK ケイ酸 40～60kg/10a」を必ず施用しましょう。

耕起

代かき

均平に心掛け、浅水で前作の作物残渣を確実にすきこみましょう。代かき後は、自然減水とするか、水の濁りが落ち着いてから落水しましょう。

溝切り

圃場の外周部や乾きにくい部分に、排水溝を設置し、圃場全体を均一に干しましょう。

＜排水溝の設置例＞

乾きにくい部分に管理機を走らせる

畦塗りと同時に額縁排水溝を設置

（隣接の圃場から漏水が懸念される場合は、深めに額縁排水溝を設置する。）

２．種子の準備

・目標の苗立ち数 150～200 本/㎡（m間 30～40 本）を確保するため、
播種量は、乾籾で 10a 当たり６～８kg としましょう。
・播種時期が早いほど、出芽に時間がかかるため、播種量は時期に応じて
調整しましょう。
（例）４月 10～20 日播種：８kg/10a 程度
４月 20～30 日播種：６kg/10a 程度
・腐敗籾等の発生を防ぎ、苗立ちを確保するため、
キヒゲンＲ−２フロアブル（乾燥種子１kg 当たり
原液 20mL を塗沫処理）による種子消毒を行い
ましょう（※ＷＣＳ用稲の場合は、使用しない）。

**キヒゲンＲ−２フロアブル
塗抹後の種子**

３．播種作業

・播種は、４月中旬～下旬で、圃場が十分に乾燥した状態で播種しましょう。
＜播種時の土壌水分の目安＞

**適正水分状態で
播種した圃場**

**トラクタのラグ跡は
あまり残らない
Ｖ溝が高い精度で形成されて
いる（深さ５㎝、幅２㎝）
少し覆土されている**

**水分が高い状態で
播種した圃場**

**Ｖ溝の形成が不完全なので、
鳥害を受ける可能性が高い**

**過乾燥の状態で
播種した圃場**

Ｖ溝の形成が崩壊

・基肥は、「LPss 乾田直播専用」肥料を使用し、窒素施用量は、原則として、
「移植慣行＋２kg/10a」としましょう。
＜施肥量の目安＞

土壌区分	施肥量（10a 当たり）目安	
砂壌土	LPss 乾田直播専用（40−０−０）	23～25kg
壌土・黒ボク		21～23kg
粘質土		19～21kg

※乾田直播専用肥料には、リン酸、カリが含まれていないので、代かき前に、
「PK けい酸　40～60kg/10a」を施用しましょう。

４．水管理

播種後の通水処理

（１）播種～２週間

・近年、播種後に無降雨が続き、
土壌が乾燥して稲の発芽が遅れる圃場が
見られます。
出芽を促進するため、「播種後３日までに
通水処理」を行いましょう。

※覆土が十分されており、土壌が湿って
いる場合は不要。

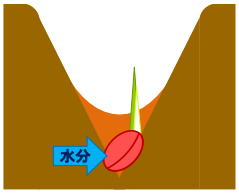
・その後も、好天が続き土壌が乾く場合は、適宜通水処理を行い、
出芽を促進しましょう。

・通水の際は、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。

**播種後に、無降雨日が続き、
土壌が乾燥し覆土がされて
いない。⇒出芽が遅れる。**

通水により

通水後に覆土されるイメージ



**通水により、軽く覆土され、種子に水分が
供給されることで、出芽が促進されます。**

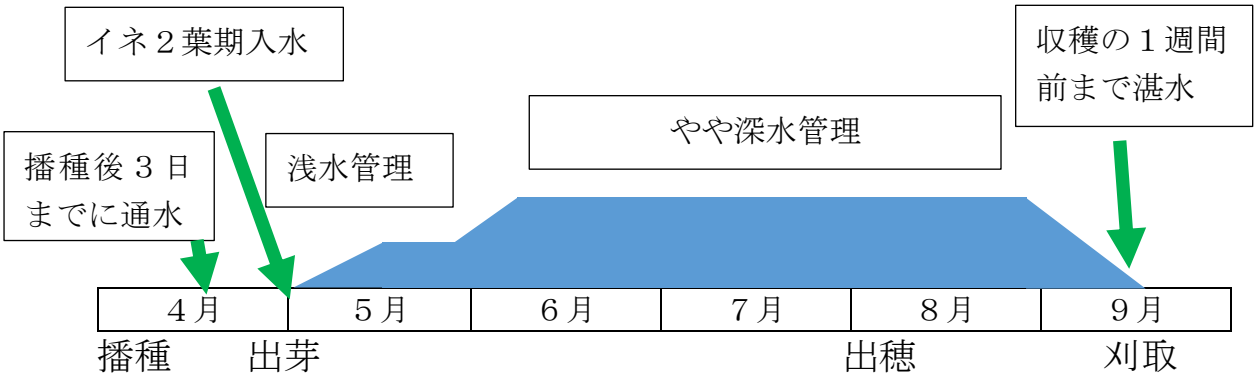
（２）稲２葉期頃

・出芽している個体 150～200 本/㎡（m間 30～40 本）の内、第２葉展開中の
個体が半数程度になったら入水し、田面が露出しないように、湛水状態を
保持しましょう。

（３）収穫１週間前まで

・抑草効果と肥効を持続させるため、収穫の１週間前まで湛水状態を保ち
ましょう。

・地耐力が確保されているため、中干しは行いません。



５．雑草防除

・基本体系（播種後日数は、４月下旬播種の目安）

播種 ⇨ **①出芽前（播種後 10 日頃）** **ラウンドアップマックスロード** ⇨ **②入水３～４日前（播種後 25 日頃）** **クリンチャーバスＭＥ など** ⇨ **③入水後（イネ２葉期頃）** **ベルーガ１キロ粒剤 プライオリティ１キロ粒剤**

散布時期等	除草剤名	散布量（/10a）	使用上の注意	ＷＣＳ	飼料用米
①出芽前（播種後10日頃）	ラウンドアップマックスロード ※１	200～500mL 希釈水量 25～50L	・散布が遅れると、イネが出芽して、薬害を受けるので、注意する。 ・周辺の圃場に飛散しないよう注意して散布する。	○	○
②入水３～４日前（播種後25日頃）	クリンチャーバスＭＥ液剤	1,000mL 希釈水量 70～100L	・展着剤は加用しない。	○	○
	トドメバスＭＦ液剤	1,000mL 希釈水量 100L	・展着剤は加用しない。	－	○
③入水後（稲２葉期）	ベルーガ１キロ粒剤	１kg	・ノビエ2.5葉期まで（ただし収穫75日前まで）	○	○
	プライオリティ１キロ粒剤 ※２	１kg	・ノビエ３葉期まで（ただし収穫90日前まで）	－	○

※１　ラウンドアップマックスロードを散布できなかった場合は、雑草の発生状況を確認し、早めにクリンチャーバスＭＥ液剤等の液剤を散布しましょう。

※２　プライオリティ１キロ粒剤の収穫前日数は 90 日のため、ＷＣＳとして収穫できなくなるので、収穫まで 90 日以内の場合はＷＣＳ用稲には使用しない。

【雑草の多発生が懸念される圃場のみ】

（ラウンドアップで雑草を枯らした後に散布すると効果的です。）

マーシェット乳剤：

使用時期：乾田直播の播種直後～出芽前（雑草発生前）（入水 15 日前まで）

散布量：1000～1500mL、希釈水量 50～100L

６．病害虫防除

直播は、移植と違い苗箱施薬による防除を行わないため、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等の害虫やいもち病の防除が必要となります。

（１）イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

・発生が見られたら、５月下旬～６月上旬に以下を参考に防除してください。

対象害虫	防除の目安	薬剤名	使用量（/10a）	使用上の注意点	WCS	飼料用米
イネミズゾウムシ	成虫数3.0頭/10株	トレボン粒剤	２～３kg	・湛水状態（３～５ｃｍ）で均一に散布する。 ・散布後、少なくとも４～５日間は湛水状態を保つ。（７日間は、落水、かけ流しはしない）。	○ 収穫21日前まで	○ 収穫21日前まで
イネドロオイムシ	成虫数0.5頭/10株	トレボン粉剤ＤＬ	３kg	・前年多発した圃場等では発生状況を必ず確認する。	○ 収穫７日前まで	○ 収穫７日前まで

イネミズゾウムシ（成虫）と食害

イネドロオイムシ（幼虫）と食害

（２）いもち病

・下記の薬剤で、確実に行いましょう。

薬剤名	散布時期	使用量	使用上の注意点	WCS	飼料用米
ルーチンシードＦＳ	播種前塗抹処理（種子被覆剤を加用）	乾燥種籾１kg当たり原液８ml（原液71ml/10aまで）	・播種前処理は、所定量の原液に種子被覆剤を加用して種もみに均一に付着させる。	－	○
ルーチン粒剤	６月15日頃	１kg/10a	・湛水状態（水深３～５cm）で均一に散布する。 ・散布後、少なくとも７日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水およびかけ流しをしない。	○ 収穫30日前まで	○ 収穫30日前まで

（３）紋枯病

・前年度、紋枯病が発生した圃場では下記の薬剤で、防除を行いましょう。

薬剤名	散布時期	使用量	使用上の注意点	WCS	飼料用米
エバーゴルシードＦＳ	播種前塗抹処理（種子被覆剤を加用）	乾燥種籾１kg 当たり原液５ml（原液 44ml/10a まで）	・播種前処理は、所定量の原液に種子被覆剤を加用して種もみに均一に付着させる。	－	○
リンバー粒剤	幼穂形成期１週間前～幼穂形成期頃	３～４kg	・湛水状態（水深３～５cm）で均一に散布する。 ・散布後、少なくとも７日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水およびかけ流しをしない。	○ 収穫30日前まで	○ 出穂前まで

（４）その他の病害虫防除

・移植に準じて防除を行ってください。

①粉剤体系

防除時期	随時防除	基本防除			随時防除
	紋枯病の発生が多い圃場 コシヒカリ：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃	出穂期（てんたかくは必須防除）	穂揃期	傾穂期	カメムシが多い圃場 傾穂期後
薬剤	バリダシン粉剤ＤＬ	ビームモンカットスタークルＦ粉剤５ＤＬ	ラブサイドキラップ粉剤ＤＬ	スタークル粉剤ＤＬ	トレボン粉剤ＤＬ
使用量	３～4kg/10a	３～4kg/10a	4kg/10a	3kg/10a	３～4kg/10a
対象病害虫	紋枯病	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類	カメムシ類
WCS	－	－	－	○ 収穫７日前まで	○ 収穫７日前まで
飼料用米	○ 出穂前まで	－	－	○ 収穫７日前まで	○ 収穫７日前まで

②液剤体系

防除時期	随時防除	基本防除			随時防除
	紋枯病の発生が多い圃場 コシヒカリ：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃	出穂期（てんたかくは必須防除）	穂揃期	傾穂期	カメムシが多い圃場 傾穂期後
薬剤	バリダシン液剤５	モンカットフロアブル＋スタークル液剤10	ラブサイドＫ２フロアブル	スタークル液剤10	トレボン乳剤
使用量	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 2,000倍
対象病害虫	紋枯病	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類	いもち病、カメムシ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類	カメムシ類
WCS	－	○ 収穫14日前まで	－	○ 収穫７日前まで	○ 収穫７日前まで
飼料用米	○ 出穂前まで	○ 収穫14日前まで	－	○ 収穫７日前まで	○ 収穫７日前まで